

クランクイン時の水野祐之進役・二宮和也さんのコメント

□ （初の）時代劇で撮影が始まったばかりですが、今のお気持ちは？

A: やはり通常の現代劇とは見た目も違いますので、そこは新鮮に映るかなという感じです。まだこういう見てくれではあるんですけど、後々変わってきますし、着ているものも、小道具にしても違うので新鮮だなというふうには映りますね。

□ 今作の 役作りについて、こだわっていることはありますか？ 演じる人物像について、どう解釈されていますか？

A: 病気で男子が少なくなっている世の中で、監督がおっしゃっていたのは、水野だけは生命力が強い男子として演じてほしいと言われたので、そこを重点的に、しっかりやって展開していこうと思っています。

Q: ちゃきちゃきな男子で、江戸っ子なかんじですね？

A: まあ僕自身も江戸っ子なんで、しゃべりやすいのかもしれないですね。

□ ご自身の衣装などを見て、なにか感じる事、思うことはありますか？

A: 衣装合わせで着たときは、（その場に俳優は）僕一人だったんですが、一人で着てこれだけ豪華というか、派手というか、見栄えがいいものを、それが今度は何十人と着るわけじゃないですか、だから本当に豪華になっていくだろうなと感じましたね。

□ まだ、まげ姿ではないですが、先日の扮装テストで、ご自身で、このまげ姿を見てどう思いましたか？

A: 衣装合わせやら、ポスターやらで一通りつけさせて頂いたんですが、なるべくしっくりくるようにキャラクターのほうを作っていけたらと思います。

□ かつらのかぶり心地は？

A: 快適ですよ、ぼくは。まだ全部じゃないからなのかもしれないですが、これから大変になるのかな？でも時期が時期だから、「すごくいい時期だよ」とスタッフのかたがおっしゃっていたので、時期にもめぐまれているのかと思いますね

□ 時代劇ならではの、セリフまわしですが、発音など難しくないですか？

A: むずかしいですよ、普段使わないです。敬語とも謙譲語ともまたひとつづが言葉です。聞こえもしゃべってもそう思いますし、特殊ですよ。

□ 金子監督の印象は？

A: 監督とはこれで3度目なんですけど、すごくやりやすい監督さんです。芯を強く持っていらっしゃるし、話もきちんと聞いて下さいますし。やっていて常に方向性が見えている方なので、僕はやりやすいという印象です。

□ 時代劇といえば殺陣ですが、殺陣の稽古はいかがですか？

A: すごく丁寧に教えていただいているので、そこはその期待に応えねばと思っています。一緒に殺陣をしてくださる人たちはすごく経験がある人たちなので、すごく助けて頂いていますね。

□ 男女逆転という今作の設定を訊いてどのように思いましたか？

A: その印象をお持ちの方や、原作読んでいる方が本当に多いので、忠実にやるところは忠実にやって、映画版ならではの、実写の、動画の良さといいますか、出たらいいなと思います。

□ 今回は沢山男性キャストとの共演になりますが、特に楽しみにしているシーンなどありますか？

A: 僕は単純に若い人とお芝居する数が少ないほうなので、それは非常に楽しみだし、うれしいです。サダヲさんとかの年齢の方と絡むことが主なので、若い人たちとお芝居できることが単純にたのしみですね、もちろん緊張しますが。

□ これからの撮影に対しての意気込みをお願いします。

A: とにかく僕は、こういう時代ものが初めてなので、いろいろぎこちない部分とかもあるかもしれませんが、そういう部分も含めて、是非水野というキャラクターを、見てくださる人に好きになってもらえるようなキャラクターになればいいなと思って頑張っておりますので、是非とも見に来ていただきたいなと思っております。